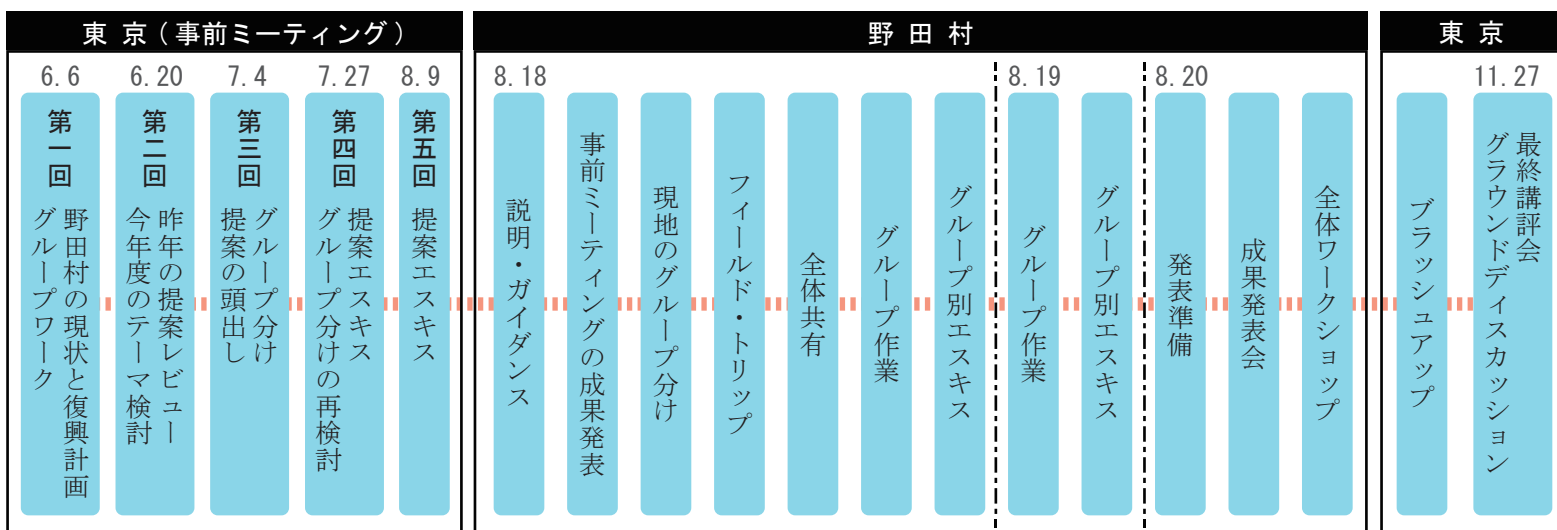


## ■野田村シャレットワークショップ 2012 の概要

昨年7月、東京・青森ほか複数の大学が連携し、東日本大震災被災地の復興まちづくりを考える学生主体のシャレットワークショップを野田村で行ない、現地に即した復興まちづくりプランを提案を行った。そして、昨年の活動をうけてこれからの地域主体のさまざまな地域再生・活性化の取り組みを展開していく上で、外からの学生・専門家の意見を役立てていただきたいとの考えから、2012年8月に第2回シャレットワークショップを実施することとなった。

また、地域に寄り添ったまち育て活動の考え方を共有する専門家グループとして、野田村に拠点を置くボランティアネットワーク「チーム北リアス」と連携した企画として実施された。

## ■日程



## ■グループ分け

事前ミーティングの検討を受け、5つ班にグループ分けを行った。まとめにおいては生業兼業モデル班以外の4つを取り上げることとする

### 公園・交通班

野田村の海岸沿いの一帯は復興計画において都市公園事業予定地となっている。この公園はまず、復興記念公園としての機能を有すること、今後の野田村の活性化につながる場として計画を行う。また、野田村の交通体系の現状を基に、今後の野田村での新たな公共交通のシステムの提案を行う。

### 中心市街地班

野田村の中心市街地は津波により深刻な被害を受けた。かつての村の中心であったこの場所は土地区画整理事業が予定されており、今後復興を進めて行く上で重要な場所である。被災以前からこの商店街は衰退傾向にあるが、復興後は野田村が被災前よりも活気のある村となるような商店街の提案を行う。

### 祭りと避難訓練班

このテーマでは、安心・安全に暮らせる村づくり、災害に強い村作りを目的として、現状の野田村における防災面での危険な箇所などを調査・検討し、今後震災が発生した場合の安全な避難経路を提案する。  
また、誰もが楽しく避難訓練に参加できるような新たな避難訓練の内容についても提案を行う。

### 生業兼業モデル班

野田村の魅力のひとつである海産物は津波により甚大な被害を受けた。また、漁場も破壊され、産業の立て直しが急務となっている。そこで、このテーマではそのような背景を基にして、今後の野田村において、「野田村らしい」生業モデルを提案を行う。

### 高台移転班

津波により住宅が半壊・または倒壊した世帯を対象として、村内の山を切り崩し、高台として集団移転することが計画されている。移転先での新しいコミュニティなどが問題として考えられるが、このテーマではそれらを基に、移転先の団地及び住宅の計画・集会所の計画を提案し、新たなライフスタイルを示唆する。

講師・専門家

玉川英則 (首都大学東京)	市古太郎 (首都大学東京)	永田素彦 (京都大学)
河村信治 (八戸高専)	馬渡龍 (八戸高専)	北原啓司 (弘前大学)
李永俊 (弘前大学)	飯考行 (弘前大学)	野澤康 (工学院大学)

参加者

<弘前大学>

三上真史	村上早紀子	谷本佳樹	田上晃央
後藤有伸	葛西甫彦	藤田雄大	中嶋春花
斎藤美紀			

<八戸高専>

小笠原聡志	小比類巻久恭	粒米雄貴	渡部貴大
奥谷貴	有馬秀	大坂元気	泉拓也
尾崎美咲	工藤奈那美	池田瞳	小船菜里奈
助川未紀	谷口舞	西塚真子	北村美希
外山李沙	渡部萌		

<工学院大学>

岩田暁	池田洋輔	酒井勇人	高橋司
山下純哉	山田真哉	大高佑貴	大平裕貴
山崎信幸			

<首都大学東京>

大島和之	水上小紀子	前田晴香	平野有良
岡智史	大石裕貴	竹下倫平	黒澤佑太
岩阪英将	サチルヲ	角谷学	鳥海活哉
大久保智			

<京都大学>

小島三季

<大阪大学>

塩田朋陽

<社会人>

仁藤秀俊 (静岡県庁)

公園

■コンセプト

都市公園の機能

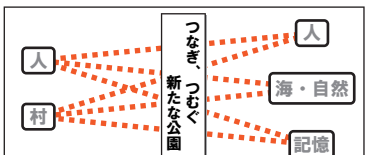
- 遺構・鎮魂
  - 地域の活性化
  - 防災・減災
  - 災害の記録・教訓の伝承
  - 復興の象徴
- 震災の復興記念公園であるためには、通常の公園において求められる機能に加えて防災・被災の記憶を継承し、復興を象徴するような空間とする必要がある。

今後の野田村に必要なもの

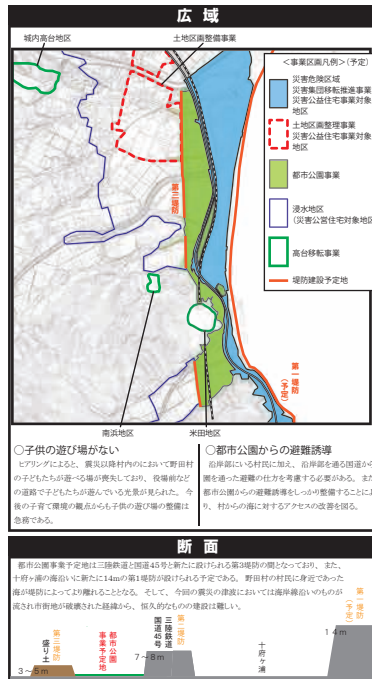
- 分析されたコミュニティ再生の場
- 人口減少など、地域の衰退に対応できるような元気な村

つなぎ、つむぐ公園

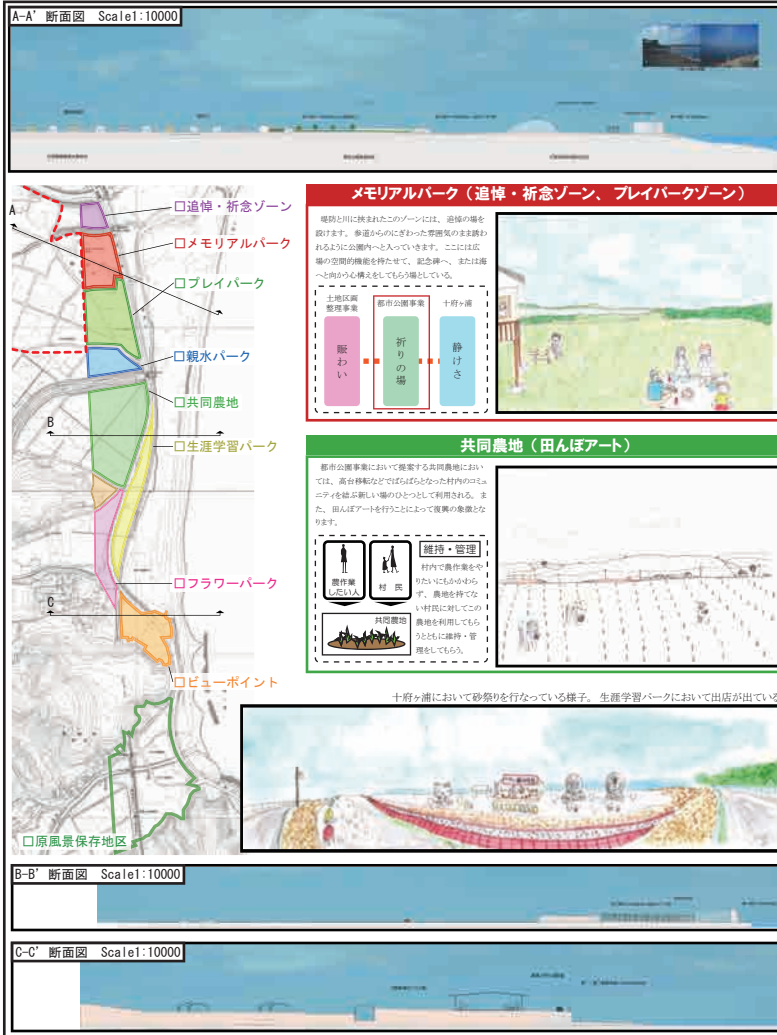
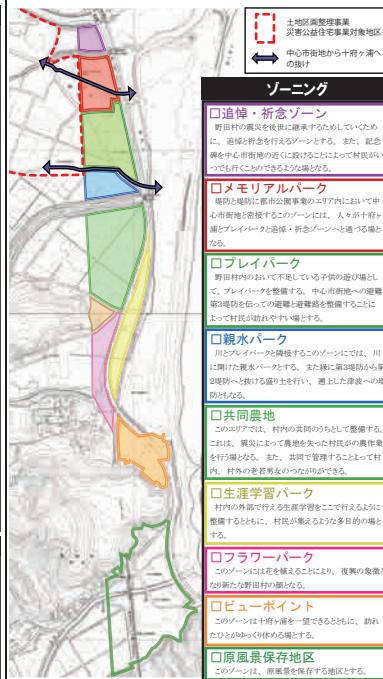
野田村で予定されている都市公園事業は、震災の復興記念公園であるとともに、復興に向けた地域の活性化や高台移転などによって分断されたコミュニティの再生を行う必要がある。そこで私たちは都市公園において、「野田村の人々をつなぎ、人々の記憶を紡ぐ」をコンセプトに提案を行ないます。



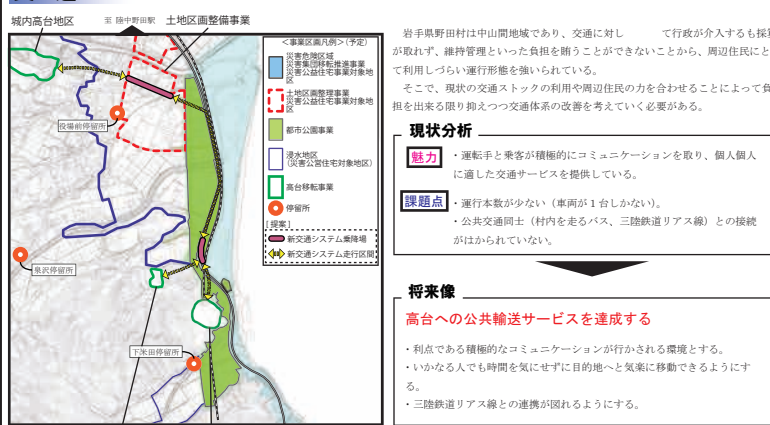
■分析



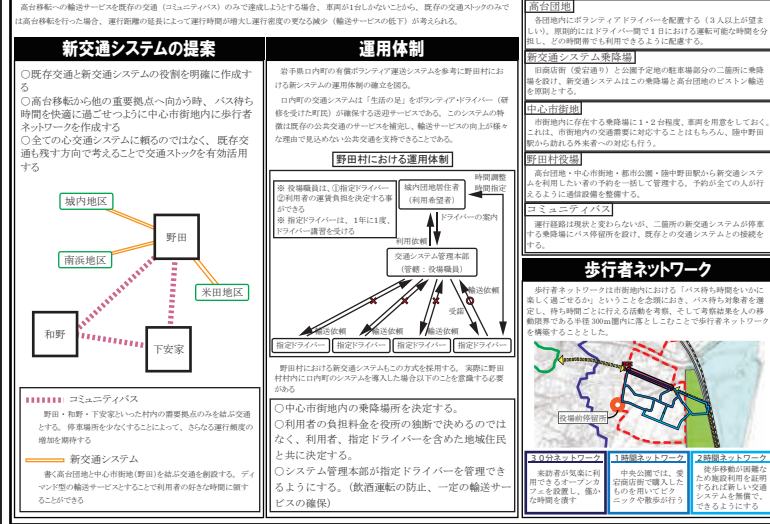
■整備方針

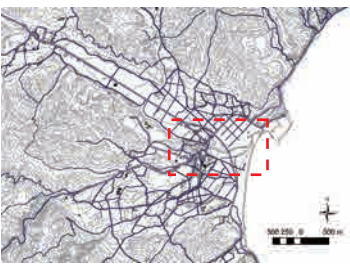


交通



■将来の交通形態





INTRODUCTION

- MISSION (使命) 村の顔の再興
- VISION (ビジョン) 村の中心にある4つの軸が溢れ合い野田村の中心に人が集まる
- CONCEPT (コンセプト) 以前は基本が崩れてしまっていたが、震災より本町通りは立て直された。そこで震災復興を機に本町通りを軸として整備し、その上を人が集い交流の場を創出する。
- PLAN (計画) 1. 本町通りを軸として、まち歩きを創出する。 2. もっさり歩きの野田村の交差点を整理し入れる。 3. 駅前における賑わいを取り入れる。

**村の顔の再興**

村の中心にある4つの軸が溢れ合い野田村の中心に人が集まる

以前は基本が崩れてしまっていたが、震災より本町通りは立て直された。そこで震災復興を機に本町通りを軸として整備し、その上を人が集い交流の場を創出する。

- ・本町通りを軸として、まち歩きを創出する。
- ・もっさり歩きの野田村の交差点を整理し入れる。
- ・駅前における賑わいを取り入れる。

SURVEY 1



**野田村中心部の構造 ～4つの道～**

- 本町通り** かつての村の顔であり、この道で行われる際には村内外から多くの人が集まる。比較的活気が高く、特に祭日には村外から野田村に入ってくる人が多かったため村の中心地であった。
- 駅へ通じる道** 現状の機能としては、理髪店、スーパーマーケット、雑貨店等の生活を支えるための機能が果たしている。震災以降も多くの店が再開している。
- 登山山歩道** 現在賑わっている道。歩行者専用道路であり地味はタイル敷きである。住宅を中心として生活に密着した店舗が少なく、住民は住みながら多く地味である。目下の本町通りとは明確に違いが認識されており、歩道と呼ばれているはこの道だけである。
- 行政機能拠点** 野田村の行政機能が集約した場所。現状の機能として、役場、図書館、体育館、総合センターが集約されている。

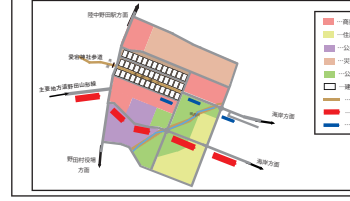
SURVEY 2



**ヒアリング**

- 以前の暮らし**
  - ・「もっさり」と呼ばれる酒場でお酒を買ってその場で飲み楽しむ習慣が村の中でコミュニケーションツールであった。
  - ・本町通りで行われていた祭りは、村外からも人が来て非常に活気がよく、昔と比べると規模が小さくなってきている。
  - ・本町通りの商店前は震災前から衰退傾向にあり、復興の際は新しい商店街のあり方を提示する必要がある。
- 現在の暮らし**
  - ・買い物も入部の方まで歩いてしまう。
  - ・住居環境のニーズが高く以前の土地に住居を建ててみたいという人も多くいる。
  - ・古くからある祭りや毎月がつく日に開催される6日市などには多くの人が集まり活気がある。
  - ・まあるきの屋内スペースには子供が集まり、交流の場となっている。
- 不安と願い**
  - ・高台移転することで、元あった野田村中心部が衰退してしまうのではないかと不安を抱えている。村の中心を復興したいという思いが強い。

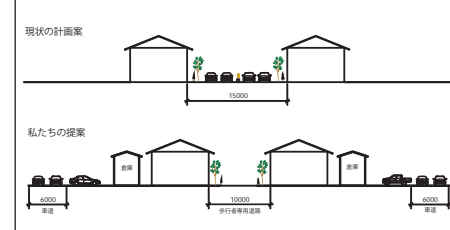
PROPOSAL 1



**本町通りの再整備**

- ・本町通りは村の中心部で大きな役割を受け、今後復興を進めていく中で重要な場所である。
- ・現在見られている計画によると本町通りの幅員は15mで、主車道の避難路としての役割づけである。平時では45への通過交通の割合が多くなること予想される。
- ・それに対して私たちは村の中心として活気のある歩行者専用道路を整備することを提案する。
- ・通過交通は、主要方面山形形から役場を通る道を、南方面へ延ばすことで回避する。
- ・住民所有の車輦として住宅の裏に道路を通し、本町通りは村の顔としての活気ある歩行者のための街づくりとする。

PROPOSAL 2



現状の計画案

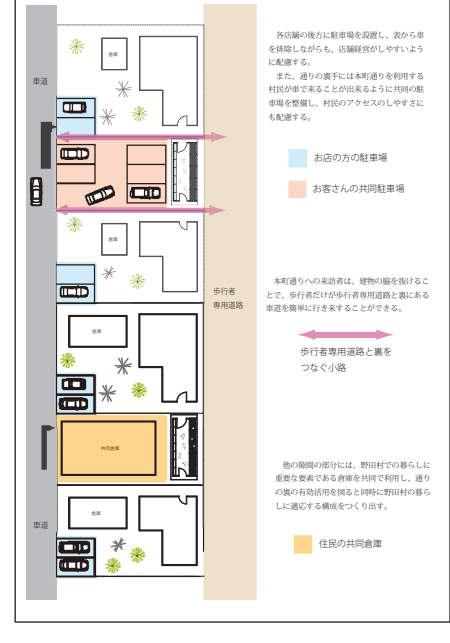
私たちの提案

村の顔としての活気ある歩行者空間を形成するため、計画案にある避難路としての幅員15mの4車線道路に対して、10mの歩行者専用道路を提案するにあたって、平時の豊かな歩行空間と、緊急の視覚性が両立するよう意識した。両脇の店舗を含め歩行者が一体となれるような幅でありながら、野田村の賑わいに欠かせない車の通行が可能となる幅として、道路幅員を10mとした。

また、図のように駐車を各店舗住宅の奥に設置し、車道からのアクセスをしやすいようにしている。



PROPOSAL 3



各店舗の奥方に駐車場を設け、表から車を控除しなす。店舗前がしやすいように配置する。

また、通りの奥手には本町通りを利用する村民が車で来ることが出来るように共同の駐車場を整備し、村民のアクセスのしやすさにも配慮する。

おどりの駐車場

おどりの共同駐車場

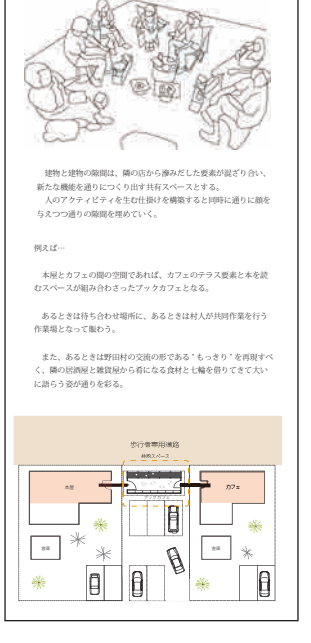
本町通りへの来訪者は、建物の脇を抜けることで、歩行者専用道路と表にある道路を簡単に行き来することができる。

歩行者専用道路と表をつなぐ小橋

住民の共同倉庫

他の周辺の部分には、野田村の暮らしに重要な役割である倉庫を共同で利用し、通りの奥の有活路を活かすとともに野田村の暮らしに適合する構成をつくり出す。

PROPOSAL 4



建物と建物の間隙は、隣の店から漏みだした要素が溢れ合い、新たな賑わいを生み出す共有スペースとする。人のアクティビティを生む住居と同時に対応に賑わいを生み出す賑わいを創出する。

例えば-

本町とカフェの間の空間であれば、カフェのテラス要素と表を渡すスペースが組み合わさったブックカフェとなる。

あるときは待ち合わせ場所に、あるときは村人が共同作業を行う作業場となる。

また、あるときは野田村の交流の場である「もっさり」を再興すべく、隣の店舗と雑貨店から有る素材とを揃えてきて大いに遊ぶ場を創出する。

Vol. 3 祭りと避難訓練班

PROPOSALS

**配置計画**

- ・共同スペース 2〜3件ごとに共有スペースを設ける。
- ①共同作業場
- ②共同倉庫

各々の店舗が野田村または他店舗と共有スペースを関係し、住民の交流を促す計画とする。

- ・食堂 野田村・魚屋・八百屋から食材を仕入れる。
- ・のど庵 野田村の名物のだんを扱う店舗。
- ・魚屋 野田村で取れた魚を扱う店舗。
- ・八百屋 野田村の畑で採れた野菜を扱う店舗。
- ・茶屋 平屋外のスペースでもくつろげる空間。
- ・のど庵 野田村の名物のだんを扱う。のど庵作りの体験を行うことができ、宝石店と工房を共有する。
- ・宝石店 野田村で取れたマリンローズを使用した宝石を扱う。
- ・服屋
- ・本屋
- ・花屋

■避難場所の改善案

**提案のプロセス**

目的: 安心・安全に暮らせる村づくり 災害に強い村づくり

要案: 市民の「持続的」な防災意識の向上 津波避難のしやすい空間創り コミュニティのつながりの向上

提案: ハード&ソフト 避難場所の改善案 小単位のコミュニティ向上に関する提案

**提案フロー**

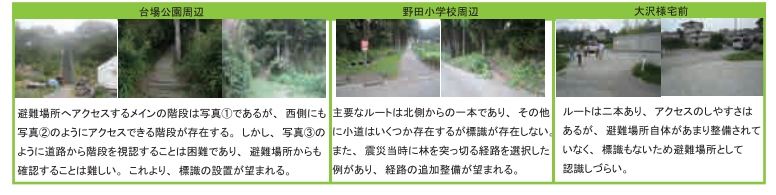
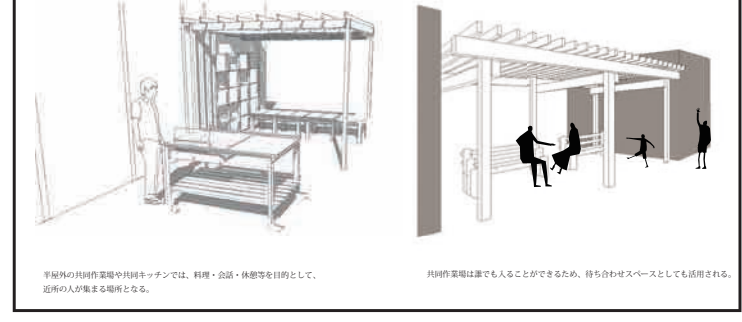
フィールドワーク → 考慮すべき3点 (避難経路及び周辺環境の整備状況, 電灯の充足程度, 標識の充足程度) → 各避難場所の問題点の把握 → 特定の避難場所における改善案の提案

**避難場所の問題点**

上図 野田村中心部復興19年



PROPOSAL 6



**避難場所の改善案 ～住民に親しまれる空間創り～**

- 浄水場跡地**
  - ・公共複合施設 (この場所は避難場所であるにも関わらずフェンスで締め切られており、空地である。ヒアリング調査より避難場所として雨風をしのげる建築物が必要であると考えた。震災当時、数台自動車避難した例があり、駐車場を設け、立地の関係上人の出入りが少ないことが予想されるため、備蓄品などの倉庫として利用することを目的とする)
- 旧JA倉庫前**
  - ・公園 (花壇等) (現在避難場所としては整備されておらず高低差があるため道路から進入しづらい。敷地面積が狭く、角地であることより、住民の方々に利用されやすい公園の提案を目的とする)

■小規模単位のコミュニティの向上

災害時に適切に行動するためには、日ごろからの小規模単位の世帯同士のつながりを築くことが必要であるため、以下の取組みを提案する。

野田村 チーム(近隣世帯)対抗駅伝大会



開催時期:11月  
開催場所:野田村  
参加単位:地区毎(1地区3チームまで)

経路:御台場公園  
A ~20代 久慈工業高校  
B ~10代 浄水場跡地  
C ~50代 旧J A野田米倉庫前  
D ~40代 野田中学校  
E ~30代 野田小学校  
F ~50代 大沢秀美宅前  
G ~20代 愛宕神社前

○リヤカーを使用した高齢者搬送の避難訓練イベント

東日本大震災においても高齢者の死亡率が約7割と高い割合を示しており、近隣住民が、高齢者をリヤカーにより搬送するようなイベントが必要であると考えられる。(写真は宮崎県宮崎市で実際に行われた避難訓練の例)



○室内安全アドバイザー制度

小規模単位のコミュニティの代表世帯が室内安全について学習し、コミュニティ全体に周知及び定期的な室内安全の確認(アドバイザーによる各戸訪問)を行うことでコミュニティ内の繋がりを強化する事を目的とする。



訪問時の確認内容例

- ・家具の転倒落下防止対策の実施状況
- ・家具の向きや配置の安全性

訪問を行うことにより、身動きの取れない方や身動きの取りづらい方への声掛けにもなりコミュニティの向上に繋がる。

○共同花壇→地域に共同で手入れする花壇を設けて、人々のつながる場面を増やし、コミュニティを上げる。



### 高台移転の現状分析

●城内高台計画案

●城内高台計画案の分析

Good

- ①中央に公園があるのはアクティビティを促すのに良い。
- ②高台が急峻なため高台の増築はできない。
- ③車道に対する緩衝帯として4mの緑地が確保されている。
- ④歩行者用道路が配置されている。

Bad

- ①自動車道が中間にないため北側に行くには不便である。
- ②公園の中心部を車道が通っており公園を二分している。
- ③道路の斜上不便になり、つなげたいほうが良い。
- ④集会所の場所の妥当性。

●高台居住者のメリット・デメリット

●高台居住者のメリット

- ・防上、安全で安心して住むことができる。
- ・環境が静かにもよる減らすことができる。
- ・イベントなどの集会所で高台の上から見られる。
- ・将来的に不動産価値の向上が期待できる。

●高台居住者のデメリット

- ・被災前のようなコミュニティ形成が難しい。
- ・居住者が市街地から離れてしまう。

●集会所の築城

- ・城内高台のゾーニング、高台寄り
- ・公園を中心とした配置
- ・住宅の設計・敷設計
- ・住居内外と外構のつながりや緑地の確保を設計する
- ・計画案以外の用途
- ・グループホーム、集会所、作業場

### 現地調査

●ヒアリング

●ヒアリング内容のまとめ

●フィールドワーク

### 城内高台における提案

●共用スペースをつなげるタイプ

●1フロアにまとめたタイプ

●提案するプランニング

●提案するプランニング

### 居住者別の住宅のプランニング

●1~2人用住宅(約50m<sup>2</sup>)

●3~4人用住宅

●4~6人用住宅(約80m<sup>2</sup>)

●住戸の配置計画

●住宅配置のダイアグラム コミュニティベースの割り方

●住戸の配置計画

●住宅配置のダイアグラム コミュニティベースの割り方

### 高台団地のコミュニティの問題点

はじめに

まちの駅について

提案内容

Give & Take

まちの駅の内外部イメージ

貯水池のイメージ

集会所の活動イメージ